

山を登る



1見晴らしの良さに思わず笑みがこぼれる2完登記念に藤原岳山頂で班ごとに記念撮影3休憩地点へ到達するだけでも感じられる達成感4ところどころで山岳連盟の会員が解説



普段は眺めることしかできない山頂を目指す。たやすくはないけれど、一步一步が自分を山へと近づけてゆく。そんな登山をもっと身近に感じてもらいたい。登山イベント「THE HIKE」を開催しました。

初心者でも登山を楽しめる

最も山を身近に感じ、山の自然や山頂での景色を最大限に味わえる登山。そんな登山を経験がない方も含めて誰でも楽しめるような企画された登山イベントが「ザ・ハイク」です。「ザ・ハイク」は、第1回を令和6年5月に菟野町御在所岳で開催し、10月26日には第2回として定住自立圏形成協定を結ぶいなべ市藤原岳で開催しました。当日は、三重県山岳・スポーツクライミング連盟（以下、「山岳連盟」）の会員や関係者がスタッフとなり、登山のペースや危険箇所を入念に確認しながら山に入りました。参加者は登山経験の有無などから約10人へ

三重県山岳・スポーツクライミング連盟
かとうまさゆき
会長 加藤正之さん 奥郷
INTERVIEW
登山をしているとなぜ登り始めてしまったのだろうと自問自答するほど苦しい場面もあります。しかし、山頂までたどり着いた景色を見た瞬間と達成感は全ての苦さを忘れさせてくれます。だから、何度苦しい思いをしても人は登山に挑むのだと思います。見知らぬ地域の高い山への登山も魅力的ですが、やっぱり地元の人に登って山頂から自分が住む地域や見覚えのあるランドマークを見つけれられることも地元のお勧めポイントですね。



VOICE 「THE HIKE」参加者の声
みずたにまり
水谷真理さん
朝日町
こんなに体力的に大変だったのは学校の部活動以来でしたが、頂上で景色を眺めながら昼食を食べてその疲れも吹き飛びました。付き添ってくれるスタッフが適切なタイミングで声をかけてくれたことがすごく励みになり、登山初心者の私でも登りきることができました。

みずたに
水谷みちるさん
菟野町
セブンマウンテンは以前から登ってみたいと思っていて、このイベントを逃したら次の機会はないと思って参加しました。このようなイベントは大変ありがたいです。登山には体力が必要と思って、当日までに1200段の階段を登ってトレーニングを重ねて臨みました。

おくとかみつ
奥貴光さん
四日市市
当日は暑くも寒くもなく、穏やかな天気の中の登山で心地よかったです。妻に誘われて参加したので朝の登り始めは気持ちがおっくうでしたが、登り始めたら何も考えることなく登ることができ、ところどころ見える絶景に心奪われて楽しくなっている自分がありました。

何度苦しくて挫折しそうになっても山頂からの景色は全てを忘れさせてくれる。

ずつの班に分かれて登山を開始し、山頂を目指しました。休憩地点や見晴らしがよいポイントでは山岳連盟の会員から藤原岳の歴史や登山ルートの解説が行われ、登山の奥深さを噛みしめながら藤原岳に挑みました。山頂付近では、お弁当が提供され、360度遮るものがない景色を見渡し、秋の清々しい風を全身で感じながら山頂に生える草花や石灰石で形成された岩場を参加者たちは心よさそうに眺めていました。

登山者の安全安心のために

登山は山を思う存分に楽しめる一方で遭難、けが、低体温症といった危険も伴います。山での遭難を防ぎ、登山者の安全を守るために進められている登山道整備の多くはボランティアの手によって行われています。町内の登山道には、登山

ルートを示す道標が約700箇所設置されていますが、多くの地点で設置から約15年が経過し、道標の位置がずれていたたり、劣化していたりする場合がありま

安全な登山に繋がる登山道整備

菟野町朝明を拠点に、鈴鹿山脈を中心に活動している朝明アルパインクラブでは、町内の登山道の整備を行っています。登山道の整備には、景観を損なわないよう、山にある自然の素材を用い、整備後も維持が図れるよう常に意識しながら整備を行っています。登山者が安全に登山を楽しめるのは、このような地道な活動のおかげでもあります。



▲自然を生かし鎖場などの危険箇所を整備する様子

朝明アルパインクラブ
いむらとしお
居村年男さん
INTERVIEW
約40年間、鈴鹿山脈の登山道整備に携わっています。使用する木材や石材は現地調達で、橋を架けるにも細かい設計図はなく永年の経験を頼りに作ります。ただ、我々の手では1年に1本の登山道を整備するのが手一杯で、整備後に人が通って1年で崩れては意味がなく危険なので、ある程度の年数を維持できるよう整備をしています。ルートを示す道標と登山道がしっかり整備してあれば、山中での遭難者は必ず0に近づきます。



5大雨で流失してしまった御在所岳裏道にある七の渡しの橋6現地で切り出した木材7令和4年12月に架け直された新しい橋

山への想いさらに募らせて

今回は、かたちは違えど山から受けられる恩恵を心の底から感謝して受け入れ、山との関係性を自分たちなりに築き、山とともに歩む気持ちにあふれていました。その一人一人が、山の魅力をより際立たせる大切な存在として、山の宝と思えるほどに輝いていました。この町に住む皆さんも、山の麓にある菟野町に住んでいるのですから、町内どこからでも見える鈴鹿山脈の雄大な姿を眺め、その魅力をふとしたときに思い出し、山へ想いを馳せてみてはいかがでしょうか。きっと同じように山に魅せられるはずですよ。